

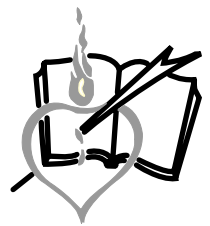
ぶどうの木

2014年12月

第104号

聖アウグスチノ

カトリック葛西教会



東京都江戸川区中葛西1-10-15

03-3689-0014

降誕節、年末、新年

主任司祭 ヘスース・ダーニョ神父

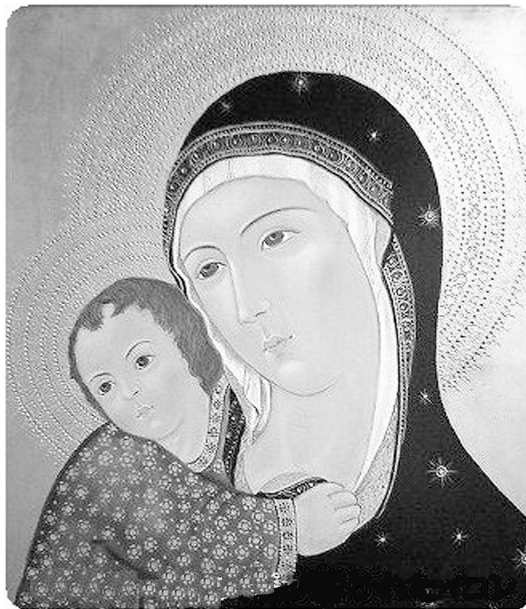
毎年この時期に、カトリック信者の私たちは三つの時節を重ねて迎えます。まずは、降誕祭、あるいは、クリスマスと呼ぶイエス様の誕生日を祝います。クリスマスは「与える時節」と呼ばれているので、ギフトをいただいたり、贈ったりして交換するのがクリスマス。の習慣となっています。

ギフトをいただくことに関して、僕は子供の時から家が貧しかったため、高校生の時まで、お小遣いをもらえなかったのですが、クリスマスの時だけはもらっていた思い出があります。ですから、クリスマスの日が近づくと僕はわくわくしてきました。なぜなら、クリスマスのおかげで、新しい服や靴や学校用の品を買ったことができたからです。当時の私はギフトをいただくばかりで、与えてもらうことがクリスマスの味わいになっていました。

大学を卒業した後、私は勤めて、給料をもらい、兄弟や友達や知人から幼児洗礼の代父を頼まれて、受洗した子供にお年玉のような



Merry Christmas
and
Happy New Year
2015



プレゼントを特にクリスマスの日に与えることが習慣になってしまいました。その頃から、いただくことより、与えることのほうがすばらしいと私たちは悟っていきました

年末になって、どういうことを考えるでしょうか。また一年があつという間にすぎってしまった、と感じるかもしれません。2014年のすべての出来事を振り返ることになるかもしれません。2014年はどんな一年だったでしょうか。たとえどんな年であっても、「いつも喜んでいなさい。どんなことにも感謝しなさい」という聖パウロの励ましの言葉に答えて、一年を終えられるようにしたいものです。

そして、2015年という新しい年をどう迎えたらいでしょうか。クリスマスが終わっても、元旦から大晦日にかけて「与える」生き方を心がけるなら、2015年は幸いな一年間となることでしょう。ですから、毎日イエス様の愛の道に歩んで、与える生活を目指していきましょう。施しはクリスマスの時節だけではなく、一年を通して行うことができます。

私たちはキリスト信者として与える心を持って良い降誕節を過ごし、年末と新年を迎えて参りましょう。

降誕祭と新年おめでとございます！

アウグステイヌス 佐藤 隆一

主のご降誕おめでとうございます。

皆様にとって、2014年はどんな一年でしたでしょうか。

今年初め委員長の役割を仰せつかり、慣れないせいもあり慌ただしく一年があっという間に過ぎました。特に私事で恐縮ですがいろいろなことを経験し、一年間が半年ほどに感じられました。子供のころには長く感じたものですが。

さて今年一年を振り返り、主だった出来事を列挙いたします。

3月2日 信者総会

9日 四旬節 黙想会

梅田教会の荒川神父様

5月7日 次兵衛会主催巡礼

裾野市の不二聖心修道会訪問

6月29日 50周年準備正式スタート

29日 合同地区集会

7月26日 壮年会主催巡礼

神田教会訪問

8月15日 聖母被昇天祭

8月24日 アウグステイノ祭

9月21日 次兵衛会 昼食会

10月26日 バザー

12月7日 待降節 黙想会

カルメル会の福田神父様

このほか数多くの行事が連続し、私の手帳は土、日の予定欄は真っ黒になり一時は祈りを中心にし、行事を少し減らした方が良かったなと思った時期もありましたが、あるときTV番組である島では青年が一定の年頃になると、寝具等身の回りの物を携えて『寝屋』の家に集まり成人するまでその家の両親に育てられ集団生活をしながら、年ごろの成長期を過ごすというもので、その過程で島の伝統的な祭りや地域の行事に積極的に参加し、島の文化を守り団結協力の精神を学ぶということでした。その青年たちが現代の何か冷めたドライな雰囲気ではなく生き生きとした大変好ましいものを感じられました。行事を準備し運営し参加することで和が生まれ成長し、一致することが重要だと改めて痛感いたしました。

黙想会や巡礼など実施してきましたが、もっと祈りや聖書や典礼に触れるステージの行事を来年は今年以上に多くと多く企画しなければと気持ちを一変いたしました。

来年は、「奉獻生活年」だそうです。どうしたら主の御国のためによりよい奉獻が出来るでしょうか。皆様それぞれさまざまな良いタレントをお持ちです。決して一部の人たちだけが参加するのではなく、少しずつご自分の「身の回り」でできることから始め、葛西教会の全員が行事の準備・運営に参加されることを願っております。

いよいよ来年は、「50周年準備」の第二期目に入ります。資金的な準備もさることながら、もっとスピリチュアルな部分でもより良い企画、準備が進められる充実した年になりますように、二年生の来年も頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

マホニー神父様の病氣回復の為に祈りましょう

Let us offer a prayer
for the fast recovery
of
Fr. Maurice
J.Mahoney
O.S.A.

2014年7月2日 撮影



キアラ 笹島 泰子

クリスマスという喜ばしい日を前に、私達はクリスマスチャンとしてどのように心を整え、喜ばしい日を迎えたいのでしょうか。この待降節黙想会に、世田谷上野毛教会より福田神父様がマリア様の喜びについてお話ししてくださいました。

ルカ1章26節〜56節、天使ガブリエルがマリアに現れ、男の子の誕生を告げます。戸惑うマリアは神を信頼し、この身に成りますようにとお答えします。マリアは、親類のエリザベトも子供を神の恵みにより宿したことを知り、会いに行きます。そして、マリアの賛歌を言うのでした。



この小さなまだ少女といってもいいマリヤに、神は偉大な使命をお与えになりました。当時の社会では姦通の罪となる事であり、これからの人生を思うことも喜ばしいとは感じ得なかったでしょう。むしろ辛く、不安がのしかかるようなことです。今こそ私達は、マリア様が神から選ばれた方であり、救い主の母として敬われるべき方、神の取次者、幸せな方と見ています。しかしマリア様の人生を見ると、姦通の罪を疑われ、イエス様を生むときは貧しい飼いの葉桶であり、ヘロデから逃れる為エジプトに逃げ、死刑囚の母として十字架にかけられた我が子を最後まで見守るのです。まさに、シメオンが予言したとおり、剣で心を刺し貫かれる人生です。

しかし、マリア様はこの小さなはしためにも神が心を止めてくださったことで神を賛美します。社会的な不安を思うのではなく、神様が思いがけないやり方で自分を用的ようにとされていることに気づき、それは大きな喜びととらえて神をあがめるのです。それは、私達の思いを優先することではなく、自分は小さくなり神様の場所を大きくあけることで神に仕える者となるように。

マリア様の信仰は、神を信頼し自分を主に捧げる信仰です。たとえ自分に素晴らしい才能や容姿、技術があり目的をこの世で達成しても神の介在がなければ、うち散らされ引き降ろされてしまうのです。また、達成したものにしがみついていると、それは地獄にもな

るのです。そして、自分が大きくなっていけば、神の憐れみの眼差しに気付くことはありません。

マラキ3章6節〜10節、神は悔い改める者に祝福を限りなく注ぐであろう。放蕩息子の例えでもあるように、神の愛は私の失敗や体験を通して恵みにかえてくださり、いつでも立ち帰る者を受け入れてくださるのです。神の愛に触れた時、自分の思いや豊かさにかみついていて、それは愚かなことであると気付くでしょう。それを手放し、神を信頼する信仰を持てますように。この神の信仰の中に生きる喜びは、イエス様により皆に与えられたものです。イエス様はこの世の王ではなく、貧しい小さな家族から生まれました。私達が祝うクリスマスを、苦しみの中にいる人達には自分には関係ないと思うかもしれませんが。その失意の人達に近づくと、神は独り子を貧しい者としてこの世にお与えになりました。

神様の御業は、私達の理解できるものではありません。この待降節マリア様のよう自分自身を小さくし神様の場所をいつも大きく空けていられるよう過ごしたいです。

どうか、私達の主イエス・キリストの神、栄光の源である御父があなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるよう。 (エフエソの信徒への手紙1章17節〜18節)

秋恒例の行事バザー、絵顔と優しさがあふれる日

ペトロ 上村英才

10月26日、秋の恒例行事バザーが行われました。「恒例」ですから今までも参加してきました。私ですが、実行委員長なる役目を担っては初めてで、この日が近づくに連れてあれこれ留意すべきことに気づき、それは同時に心配事になり、当日の朝は、「ま、いいか、どう

にかなるさ。みなさん、経験豊かだから」と開き直った次第。ミサが終わってバザーが始まってしまえば、心配事なんて消えてなくなりました。楽しんでもらおうと献身的に働かれるみなさんと、それを受け取るみなさんの優しさがあふれていたからです。みなさまに感謝。ありがとうございました。



たくさんของกลุ่มが
いろいろなものを!!

